

Y08b

高校生天体観測ネットワークの2011年度活動報告と2012年度の取り組み

塚田健 (平塚市博物館)、大西浩次 (長野高専)、小田桐茂良 (青森市)、小菅京 (東工大附属高校)、佐々木孝啓 (東洋大学)、篠原秀雄 (蕨高校)、佐藤章 (山口大学)、相馬充 (国立天文台)、高村裕三郎 (一宮高校)、時政典孝 (西はりま天文台)、馬場はるか (東京理科大学)、増戸あずみ (東京理科大学)、嶺重慎 (京都大学)、渡部潤一 (国立天文台)、ほか Astro-HS 運営委員

高校生天体観測ネットワーク (Astro-HS) は、全国の高校・高専の天文系部活動等を結ぶネットワークで、学校教員や天文学研究者、科学館職員等、天文教育普及活動に携わる有志によって運営されている。1998年度のしし座流星群を契機に発足し、2000年度からは流星群以外も観測テーマに加え、多くの高校生に幅広い天文現象の観測を体験してもらってきた。

2011年度は北海道から沖縄まで74グループ、約1,000人の高校生の参加があり、12月10日に起こった月食の観測に挑戦した。月食は地球の影が月に投影される現象であり、まずは月食をじっくり見てもらうことを主眼に置き月食観測ガイドを作成した。観測ガイドはwebページからダウンロードできるようにし、観測より月の直径や月までの距離を求めることなどを提案した。また、全国で同時刻に月食の経過を撮影することにも挑戦し、月食の進行がどこでも変わらないことなども確認してもらった。天候に恵まれた地域が多く、報告された観測データはwebページで公開し、参加グループ間で共有できるようにした。

2012年度は日本の人口の3分の2が見ることのできる金環日食 (一部では部分食のみ)、金星の太陽面通過がある。これらを観測テーマとして取り上げ、様々な観測テーマを設定する予定である。本発表では、高校生たちが撮影した画像とともに今年度の活動について報告するとともに、今後の活動計画についても紹介する。